

土が開いた現代 革新するやきもの

Future opened up by Clay : Revolutionary Expression of Pottery

2024年4月27日(土) – 6月30日(日)



①林 康夫《人体》1950(昭和25) 陶 46.0×23.0×18.5

プレス向け解説会のご案内 2024年4月26日(金) 14時00分から

エレベーターリニューアル記念内覧会とあわせて、プレス関係者を対象に解説会を実施いたします。ぜひ、この機会に取材していただき、魅力を発信してくださいませようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村泰彦 広報担当：村井

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14

T E L : 073-436-8690

F A X : 073-436-1337

E-MAIL : press@momaw.jp

W E B : <https://www.momaw.jp>



WEB



Facebook



X



Instagram

土が開いた現代 革新するやきもの

4月27日(土) – 6月30日(日)

茶碗ちゃうで —— 陶芸が開拓した新しい表現の世界をふりかえる

20世紀後半、第二次世界大戦後の京都を中心に、陶芸によって新たな表現の世界を開拓する作家たちがあられました。彼らは、やきものの技術を使いながらも、従来の茶碗や花瓶といった実用のための陶器から独立した、美術として表現を生み出すことに取り組み始めました。それまでになかった作品のあり方として、前衛陶芸や現代陶芸、あるいはクレイ・ワークといった言葉とともに試みられてきた表現の世界は、その始まりから70年以上を経て、一つの分野を形作っています。

第二次世界大戦後の京都では、製陶を営む家に生まれ、家業として作陶に取り組む中で、新しい造形に挑む作家たちが現れてきました。林康夫、八木一夫、山田光、鈴木治らは、家業としての製陶にかかわる一方で、独自の表現の可能性を求めて模索を続け、類例のない表現を生みだすにいたります。

陶芸という長い歴史と伝統のある領域で、新しい表現を生み出すのは容易なことではありませんでしたが、土という素材とそれを成形する技法をつきつめ、時に寄り添い、時に反発しながら生み出されてきた表現は、既に歴史的な厚みを持つに至っています。

この展覧会では、前衛陶芸を最初に試みた四耕会から、革新的な作品を生み出す作家たちのよりどころとなった走泥社、そして世代を継いで創作を続けてきた作家たちの作品約100点によって、やきものが開拓してきた新しい表現の展開を歴史を追って紹介します。

時代による表現の変遷、素材と形との葛藤、そして個々の作家の持続的な探求を陶による表現の中に見いだせるでしょう。



②山田光《作品》1956(昭和31)陶 20.2×35.0×22.3

開催概要

展覧会名	土が開いた現代 革新するやきもの
会場	和歌山県立近代美術館 2階展示室
会期	2024(令和6)年4月27日(土) – 6月30日(日)
開館時間	9時30分 – 17時(入場は16時30分まで)
休館日	月曜日(4月29日、5月6日は開館し4月30日、5月7日に休館)
観覧料	一般520(410)円、大学生300(260)円 ()内は20名以上の団体料金 *高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 *毎月第1日曜日(5月5日、6月2日)は無料入館日 *毎月第4土曜日(4月27日、5月25日、6月22日)は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

主な出品作品



③鈴木 治《土偶 野武士》1959 (昭和 34)
陶 43.0×26.0×18.0



④熊倉 順吉《秘められた欲望》1972 (昭和 47)
陶 54.7×34.0×16.5



⑤八木 一夫《奇偶》1973 (昭和 48)
黒陶 34.4×28.0×21.2



⑥三島 喜美代《パッケージ》1974 (昭和 49)
シルクスクリーン、陶
26.0×36.5×27.0 / 13.5×23.0×22.0 / 9.5×12.5×14.5



⑦荒木 高子《頽廢の聖書》1983 (昭和 58)
シルクスクリーン、磁土 14.5×22.3×20.3



⑧林 康夫《肖像又はゲート》1974 (昭和 49)
陶 46.0×27.0×30.0



⑨坪井 明日香《唐織追想》1990 (平成 2)
陶 63.0×44.0×34.0



⑩西田 潤《No.3-A 絶》2001 (平成 13)
磁土、釉薬 74.0×74.0×66.0



⑪山野 千里《ヒラメサーファー》2008（平成 20）
陶 4.0×9.0×4.5

掲載用画像については広報担当にお問合わせください。
文字のせ、トリミング等をご遠慮ください。
掲載の作品はすべて和歌山県立近代美術館蔵です。

展覧会関連事業

都合により内容を変更する場合があります。
各イベントの詳細や参加申込等についてはホームページ等でお知らせいたします。

▶フロアレクチャー（学芸員による展示解説）

日時：4月27日（土）、5月3日（金・憲法記念日）、5月6日（月・振替休日）、5月26日（日）、6月30日（日）
各回 14時から 2階展示室 *要観覧券

▶こども美術館部（小学生を対象とした作品鑑賞会）

日時：5月4日（土・みどりの日）、5日（日・こどもの日）11時から1時間程度 *両日同内容
場所：和歌山県立近代美術館 2階展示室
人数：6名程度 *要予約 4月16日（火）9時30分からホームページで受付いたします。

会期中のイベント

都合により内容を変更する場合があります。
各イベントの詳細や参加申込等についてはホームページ等でお知らせいたします。

▶中銀カプセル見学会

日時：4月29日（月・昭和の日）、5月5日（日・こどもの日）
美術館・博物館の設計者でもある黒川紀章氏の代表作の一つである中銀カプセルタワーから取り外されたカプセル A908 の見学会を実施します。

▶美・博合同バックヤードツアー

日時：5月18日（土）10時から12時
国際博物館の日を記念して、美術館と博物館合同で実施します。普段は見られないバックヤードの見学を通じ、博物館の仕事を学ぶ機会を作ります。

同時期に開催の展覧会

▶コレクション展 2024 - 春

特集「小さくていいもの、あり☑」
会期：4月27日（土）－6月23日（日）

▶コスプレ声ちゃんのカプセルタワービルデイズ展

会期：4月27日（土）－6月30日（日）

▶県立博物館（とたり）の展覧会

きのくにの歩み ―人々の生活と文化―
会期：4月2日（火）－9月29日（日）

特別展

紀州東照宮の宝刀

会期：4月27日（土）－6月2日（日）

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展

聖地巡礼 ―熊野と高野―

第1期 那智山・那智瀧の神仏

―熊野那智大社と青岸渡寺―

会期：6月15日（土）－7月21日（日）